

Global Energy Policy Research

GEPR（グローバル・エネルギー・ポリシー・リサーチ）は、日本と世界のエネルギー政策を深く公平に研究し、社会に提言するウェブ上の「仮想シンクタンク」です。この機関は、アゴラ研究所（<http://agorajp.com/>、東京）が運営し、エネルギー問題についての研究と調査、インターネットでの情報提供、シンポジウムの開催、提言の作成、書籍の出版を行います。

「ゼロリスク脳」とのつきあい方

池田 信夫・Friday, August 28th, 2020



福島第一原発の処理水タンク（東電ポータルサイトより）

新型コロナ騒動は客観的には大勢が決したと思うが、世論は意外に動かない。

NHK世論調査

では「緊急事態宣言を出すべきだ」と答えた人が57%にのぼった。きょう出るとみられる指定感染症の見直しについても、マスコミでは否定的な意見が多い。

こういう現象は9年前の福島第一原発事故のときも起こった。微量の放射能を恐れる人々は「放射脳」と呼ばれてバカにされたが、今回の「コロナ脳」はそれより多い。福島

のときは冷静にリスクを見た人が、「ウイルスを根絶しろ」などという非合理的な主張をしている。

このような行動様式には法則性がある。これを**ゼロリスク脳**と呼ぶことにすると、その特徴は次のようなものだ。

1. 特定のリスクを絶対化する

：多くのリスクのトレードオフを考えないで、コロナや放射能のリスクだけをゼロにしようとする。「コロナよりインフルのほうがたくさん死んでいる」と指摘すると、「コロナにはワクチンがないから怖い」という。インフルにはワクチンがあってもコロナよりたくさん死んでいるのだが、その比較を拒否する。

2. 不確実性をきらう

：コロナは未知の感染症だから特別だ、とコロナ脳は考える。未知だということはこれまでの感染症より小さなリスクである可能性もあるわけだが、彼らはそう考えない。これは**エルズバーク・パラドックス**として知られている。

3. 最大の損失を最小化しようとする

：感染症や放射能のように大きな不確実性に直面したとき、人々は経済学の想定する「期待効用最大化」のような行動はとらない。こういうときは脳のスイッチが切り替わり、「42万人死ぬ」といった考えられる最悪の場合のリスクを最小化しようとする**ミニマックス原理**で行動する。

4. 安全ではなく安心を求める

：科学的に安全でも、心理的な安心を求めて際限なくリスクを回避する。その典型が福島第一原発のトリチウムを含む「処理水」の問題である。環境基準以下に薄めて流せば人体に危険はないが、怖いという風評がある限り海洋放出に反対する。

5. 不安が自己実現する

：政治がこういう不安に迎合すると、人々は「海洋放出できないのは危険だからだろう」とますます不安になる。科学的な安全性が証明されても、「風評被害」が収まらない限り海洋放出できない。不安が不安を呼ぶ悪循環が起こるのだ。

科学が風評に負けてはいけない

このようなゼロリスク脳には、共通の法則がある。恐怖は進化の早い段階で生まれた感情で、すべての脊椎動物にそなわっている。敵から逃げることは生存にとってもっとも重要な行動なので、恐怖は他のすべての感情に優先して起動するのだ。

未知の動物が近寄ってきたとき「これは敵か味方か」と合理的な**遅い思考**で推論していると捕食されるので、瞬時に逃げる**速い思考**が作動する。これは生存にとって必要な衝動なので、すべての人が遺伝的に身につけている。

それは大脳の特定の部位に集中しているわけではないが、進化の初期の段階でできた辺縁系などの**古い脳**にあるとされている。こういう恐怖は、大脳皮質などの**新しい脳**で論理的に説得することはできない。

ではどうすればいいのだろうか。これはむずかしい問題だが、一ついえるのは**新しい脳が古い脳に負けてはいけない**

ということだ。「科学が風評に負けるのは国辱だ」というのは石原慎太郎氏の名言だが、科学的に証明できない安心を求めると際限がなくなる。

福島の最大の失敗は、ゼロリスクを追求する反原発派の主張に民主党政権が迎合して、

際限なく安心を追求し、非現実的な安全基準を設定し、莫大なコストをかけて除染を行ない、法的根拠なくすべての原発を停止したことだ。

こうした政府の行動によって人々の不安が正当化され、古い脳に刷り込まれてしまった。原発を停止した原子力規制委員会の田中俊一委員長が、あとになって「処理水は薄めて流すしかない」といっても、人々の不安は収まらない。

9月8日に開催するアゴラシンポジウム「福島処理水 ”ゼロリスク” とどう戦うか？」では、処理水の問題を素材にして、放射能にもコロナにも共通する日本社会に共通の問題を考え、その解決策をさぐる。

This entry was posted on Friday, August 28th, 2020 at 12:00 pm and is filed under [コラム](#), [原子力に対する評価](#)

You can follow any responses to this entry through the [Comments \(RSS\)](#) feed. Both comments and pings are currently closed.